

手島繁一氏の生涯 関連写真・資料集

作成に当たり、手島明夫氏(実弟)、上野雅樹氏、佐々木忠氏、須藤文夫氏、乾彰夫氏ほかの方々から写真・資料の提供・便宜をいただきました。とりまとめ・編集:岡 孝雄

手島繁一氏の略歴

[誕生から高校卒業まで(根室→美幌→札幌)]

1947.11.19 根室郡根室町(現 根室市)で手島三夫・咲枝夫妻の長男として生まれる。

1954.4 根室町立花咲小学校入学

1957 小学校4年時に父親の転勤により一家は美幌町へ、美幌小学校へ転入。

1960.4 美幌町立美幌中学校入学

1961.2 中学校1年時に一家は札幌市へ転居し、市立八条中学校に転入。

1963.4 道立札幌南高校に入学、1966年3月卒業。

[北海道大学在学]

1966.4 北海道大学入学(文類)

1966.6～1966.11 教養部学生自治会執行委員長

1968.10～1969.9 北海道大学学生自治会連合(北大学連)執行委員長、1967?教育学部移行。

1970～ 東京在住(全学連書記局)

1972.7.30～1年間 全学連(全日本学生自治会総連合)執行委員長

1973.4

北大教育学部に復帰し、卒業単位取得のために教養部に残した語学などの単位や学部の勉学に佐藤廣氏とともに取り組む(7月頃までは全学連執行委員長も務めており、東京→札幌を頻繁に往復か)。

1974.3

北海道教育学部卒業(佐藤廣氏とともに)

[東京暮らし(法政大学・協同総合研究所)]

1974.4

法政大学大学院社会科学修士課程入学(指導教授:中林賢二郎)、中林ゼミで五十嵐仁氏らと共に学ぶ、1980年3月修了。

1980.4

法政大学大学院社会科学部博士課程進学、1982年同中退、以後、法政大学社会学部非常勤講師。

1986

恩師 中林賢二郎教授逝去、その頃から労働旬報社 佐方信一氏(故人)との交流が始まる。

1991.3.23 協同総合研究所(協同総研)の設立総会、2000年前後まで常任理事として研究所の立ち上げ、調査・研究活動に尽力する。

2000～

法政大学大原社会問題研究所兼任研究員、嘱託研究員など。1980年以来、法政大学社会学部非常勤講師も継続。

2002.1.11 旧姓 北井慶子(北大理学部植物学科1970年卒、同 農学部事務職員)と結婚

[札幌Uターン]

2006.2 札幌に帰る(妻 慶子との同居始める)

2010.5.16 北大の自由・自治・反戦・平和の歴史を考える5.16集会(世話人会事務局長として妻 慶子と共に尽力)

2011.2.22 同上集会のまとめ「蒼空に梢つらねて」発行(編集委員長を務める)

2017.10.20 妻 慶子死去

2019.11.4 北大闘争50周年の年に語り合うタベ(北大経済学部関係者中心)に参加

2021.1.25 同上会合から始まった取組みにより「北大1969」発行(編集委員長を務める)

2024.9.5 「北大院生協議会史」発行(「北大1969」関係者が中心メンバーとなり発足した編集委員会に加わる)

2024.12 自宅にて逝去

札幌Uターン後、戦後社会運動史研究会、白鳥事件問題の検討会、北海道戦後史研究会などに参加し、講演や関係者との討論・聞き取りなどを行い、りんゆう観光ツアーなどに参加し山登り・山歩きも楽しんでいった。「北大1969」発行後は、元北大全共闘・ベ平連関係者とのzoomによる意見交換会(「北大闘争を語る会」)や全国レベルの全国学園闘争研究プロジェクトの研究会に参加し、東大闘争関係者とも意見交換などを行い、北海道内外の学生運動史の取りまとめも念頭にあったようだが、未完成となり、多くの資料が残される

幼少期～

中学時代

(1949～1965;

根室→美幌→札幌)



父と美幌峠にて



小学校入学
(根室花咲小学校)



5歳頃



札幌市立八条中学校
校(3年修学旅行)



札幌南高校 在学 (1963.4~1966.3)

出不精だった総務

1年13組 手島繁一

初めての学校祭

札幌南高新聞中の感想文

みなみ

1966
No.13

札幌南高等学校生徒会誌

伝統について

三年 手島 繁一

ひとくちに七十年といっても、十数年の歴史しか持たぬわれわれにとって、それは測るべくもなく長い時間だ。七十年前をいうと、日清戦争が終わった年だ。その当時は勿論、ラジオを聞いた人も、テレビを見た人もいなかった。今日では当たり前になっているものがその当時では存在していなかった。たとえばナイロン、プラスチック、地下鉄、社会主義国家、民族自決の原理などである。

そんな昔に、わが札幌南高は歴史をひもといた。以来七十年、社会状況に革命的変化があったように、わが南高も幾多の屈折を経て、その歴史を築いてきた。無論、私にはここで、南高七十年史を綿密に、体系立てて述べようとする意思もまた根気もない。それをして一体何になるというのだ。昔をしのんだところで、過去はどうにもならぬ彼岸の存在だ。時間がリタインして戻ってくるわけでもあるまい。まして、生を受けてから十余年にしかないわれわれだ。七十年前のことは見てきたかの様に書くのも馬鹿げている。であるから、過去を現代として捕えることがもっと理にかなっている。すなわち、現代にも通用する過去、つまり伝統を考へることが、南高七十年に際して、われわれは、とかく伝統をひどく疎遠なものに考へがちだ。が、伝統は意外と身近なところにあるのではないかとと思う。

たとえば帽子の件……。『南高生ほど帽子をかぶらない高校生も珍らしい』とは、少々オーバーな表現ではあるが、これを取り締まる教師の側からも、取り締まられるべき生徒の側からも等しく耳にする言葉だ。試みに、私の回りを見ても、今どき帽子を几帳面にかぶってくる生徒は貴重な存在と化しつつある。ときたま、帽子をかぶってくる。その日は服装検査の日であったり、あるいは『南高生だぞし』ということを確認する必要に迫られてであったりする。事実、現在では帽子の値打ちも下がったもので、席巻そのときのファッションの入れ物や、何とか募金の際の募金箱代用としてしか用途がなくなった。昔は、エリート階級の象徴として、着てかぶられたものだというから変れば変るものだ。それはさておき、一体何が無帽をここまで普及させたのだろうか。考えてみれば答はいったって単純だ。つまり、上級生の無帽姿を見て、下級生がまねるからだ。これを、伝統だと断じてしまうのも何か変な気持ちだがしなくてもないが、ともかく上級生から下級生へと伝播する形式の側面をとりえていけば明らかに伝統という言葉が適用される。

同様なことが『下駄ばき』にもいえる。あるいはまた、代議委員会などではしばしば『伝統と慣習により云々』などということがいわれる。事実、代議委員会に代表される生徒会活動は多かれ少かれ伝統の影響を受けている。これはとりも直さず、伝統の所在を明らかにするものであり、より以上に私たちが伝統のなかに生きていることを証明するものではないか。

それにもかかわらず、われわれの間では伝統無視あるいは伝統不感症の風潮が著しい。現在、われわれの間で『伝統』を問題意識として持っている人、つまり伝統の問題は忌々しき一大事であると考

フランクリン

人は逆境にきたまねられて、はじめて生まれる。



↑このゲタ売りです
たったの10円
そのかわり水虫の薬下さい＝



北海道大学 在学 (1966.4~1974.3)

クラスに根ざした自治会活動を
更に発展させ

全学連に団結して
百万学友と共に進もう!!

教養自治会

推せん者

手島 繁一 (1-2) 山崎裕之 (1-24)

執行委員長候補

松井 憲明 (1-7) 酒向隆一 (1-18)

副執行委員長候補

城 善範 (1-15) 正木又子 (1-17)

又

1967年前期教養部自治 会選挙抱負レジメの表紙

1969年第11回北大祭プ
ログラム中での北大学連
委員長としてのあいさつ

北大祭の成功を！

第11回北大祭全学実行委員長

小山田 秀 士

北大において大学祭が生まれたのは今から11年前の安保闘争の前年でした。結成されたばかりの文化団体連合に結集したサークルの発表会として、まだまだ全北大人が参加するようなものではありませんでした。そしてあの偉大な安保闘争の嵐の中できえたえられ、その後の学生運動の中で大きく成長してきました。平和と民主主義を守り、大学の自治と学問の自由を守るために「大管法」を粉砕した後に来たものは、その実質的な対応の策動でした。第6回大学祭での「四党立会演説会中止事件」や第7回大学祭の5・27「警官導入事件」はそのなしくずしの実施でした。われわれの先輩たちは「学びの園みだす者、真理もてたたけ」を合い言葉に、教養の屋上を、中央ローソンの芝生を真黒にうめつくし、大学の自治と学問の自由を守ろうと誓い合ったのは、いまから5年前の北大祭のことです。

私たちは、過去の北大祭の中から友情を育くむすばらしさ、自主的学問研究、文化活動の追求する喜びと、大学の自治と学問の自由を守ることの偉大さとその使命感を団結のすばらしさを学ばなくてはならないでしょう。

政府と自民党は、一部の学生の暴力と破壊を口実に「秩序回復」の美名のもとに、新しい装いをこらした「大管法」を立法化しようとしています。過去数回にわたって全民主勢力のたたかいたかいの前に断念してきたそのどす黒いたくらみを表現しようとしています。これが実施されると、大北大祭のもちろんサークル活動もできなくなります。今年の北大祭の重要な企画である、安保問題ティーチンや、大問題シンポジウムや五党立会演説会も「政治活動」として禁止されるでしょう。

学友のみならず、北大祭は単なる「お祭り」でもなければ、ただたのしむだけのものでもありません。学問のあり方を、大学のあり方を、世界観を人生観を考える場としようではありませんか。

大学にかけられている攻撃の本質を見ぬき、反撃の力を蓄えようではありませんか。未来を担う青年として、日本の進む方向と展望を大いに語り合おうではありませんか。

さあ、力強く前進しよう。

広範な連帯の輪を

北大学生自治会連合執行委員長

手嶋 繁 一

僕達は、第11回北大祭を、大学の政府統制と反動的再編を企てる反動勢力の攻撃と、それに反対し大学自治擁護、学園民主化を求める全国の学友の闘争の歴史的な高揚の中で迎えている。

次官通達、中教審答申そして立法化の攻撃。大学の教育と研究を直接支配し、今日及び将来の主権者を自らに掌握する、学生、教職員から憲法に保障された民主的権利を奪うことを突破口に70年を前に国民の民主的権利の全面抑圧、人民弾圧体制の強化。これをやる唯一の根拠が、暴力集団の「暴動」「封鎖」である。

僕たちは、大学自治派が侵略戦争と軍国主義への道を開くものであることを知る故に、自分の未来の問題とも受けとめ、全力をあげてたたかっている。同時に、勝利の力は労働者を中心とする広範な民主勢力との連帯にあることも学んできた。

安保放棄を要求する人民の巨大なうねり、本土復帰を祈願する沖縄県民のたたかい。首切り、合理化に反対し春闘をたたかっている労働者、農地法改悪に反対する農民、全てのたたかいたかいを今こそ一つの流れに合流させよう。僕たちはそのために、教職員と共同し労働者、市民に訴え、連帯の輪を拡げよう。

そして何よりも、僕たちの団結を固め、スクラムの輪をさらにさらに拡げよう。統一と団結を破壊し、政府の大学解体の尖兵の役割を果たしている暴力集団を許さない。

嵐は若木を鍛える。反動の嵐が強ければ強い程、僕たちはより団結を固め、よりたくましくなるだろう。

巨大なエネルギーを新緑のキャンパスにとどろかせてきた仲間たち勝利のスクラムを固めよう。

第11回北大祭成功万歳

大学民主化の道をはばみ、大学解体と政府統制をねらう

新「大学弾圧」立法を我々は許さない！

第11回北大祭全学実行委員会

六・三三全北二万人集会
を全橋成員の手で要親しむ。

[illegible][illegible][illegible]

今や、國體の眞實に「下くは天子」といふ尊厳を、主は天子に成りたせむといふことだ。國體は、かくて、一神教の元と成りたせむといふことと相通するものだ。かく、二神教を主とせしむ。此州縣に上るは、天子に上りて天子を奉るにたゞたむの儀なりやうか。一と云ふは、天子の尊嚴の生ずる所なりといふのである。天子の尊嚴は、天子、臣民、臣民の間に成りたせむといふことだ。

此大學生自治會規程執行辦法 手寫 陳二

[illegible]

田中	三萬
山口	男孝
船橋	一
小島	一
佐藤	健二
有馬	博美
田中	誠一

三 役

委員 長	手嶋 繁一	東北大学 四年
副委員長	刈見 稔幸	東京大学 四年
	永戸 祐三	中央大学 四年
	深谷 信夫	法政大学 四年
	大和 繁	東京教育大学 四年
	結城 久志	立命馆大学 四年
書記 長	平島 信明	法政大学 四年
次 長	奥山 修平	千歳学院大学 二年

中央執行委員（四七名）

手嶋 繁一	海濱大学	教育学部	四年
汐見 稔幸	東京大学	教育学部	四年
永戸 祐三	中央大学	夜間部	四年
粟谷 信夫	早稻田大学	法学部	四年
大和 繁	東京教育大学	体育学部	四年

林城久志	立命館大学	二部法学部	四年
平島信明	早稲田大学	法学部	四年
奥山修平	千葉大学	教養学部	二年
有田美男	信州大学	教育学部	四年
栗野豊	東京経済大学	一部	四年
安藤昭治	東京教育大学教育学部		四年
石田信己	立命館大学第一文学部		四年
市川治	静岡大学	人文学部	三年
乾彰夫	東京大学	教育学部	四年
中野敏郎	東京農業大学		四年
阪谷宗孝	東京都立大学A類目黒		四年
片田信一	中央大学	夜間部	四年
亀田真秀	宮崎大学	工学部	三年
川上朱美	日本社会事業大学		四年
川人明	東京大学	医学部	四年
菅野正嗣	横滨市立大学文学部		三年
小池善和	工學院大学	一部	四年
小峰樹三	香川大学	経済学部	三年
斎藤信	岩手大学	工学部	三年
佐久間正	東北大学	文学部	四年
鳥崎正幸	北海道大学	理学部	四年

鈴木 正一
武久 秀一
津田 道明
坪田 節郎
東島 英一
内藤 英二
中平 清三
西宮 常雄
樋口 雪
日名子 大介
平沢 節郎
舟木 三千里
堀江 建雄
増田 行雄
三村 信三
森藤 政孝
柳ヶ瀬 直人
山田 恭吾
山本 新
吉田 敏
瀧田喜雄主

福島大学	経済学部	三年
愛知県立大学	文学部	四年
立命館大学	第二文学部	四年
工学院大学	一部	四年
埼玉大学	教育学部	四年
金沢大学	教育学部	四年
大阪府立大学		二年
東京都立大学	A類目黒	四年
九州大学	農学部	三年
東京学芸大学		四年
中央大学	夜間部	四年
大阪外国語大学	一部	四年
東京経済大学	一部	四年
京都教育大学		四年
東京大学	工学部	四年
神戸大学	教育学部	三年
早稲田大学	法学部	四年
名古屋大学	理学部	四年
北海道大学	文学部	四年
近畿大学	理工学部	三年
名古屋大学	法学部	三年



北大1969

「北大1969」編集委員会

北大1969

— あのこと私たちが求めていたもの —



1979, 3

Chikako

全学連第二十四回
定期全国大会決定 (第1次案)

1973.7

第一章 日本学生運動と全
学連の新たな前進
と飛躍めざして

—全学連結成二十五周年の年にあたって—

(一) 日本学生運動と全学連
の輝かしい到達点

[illegible]

演説者に傳聞とよの傳ひ 登をあらたし「連合赤軍事 生」「早稲内リソバ殺害 生」など聞きまゐる者あり きおと「世論のきしむ組織 隊は一種に分裂せり」と 記者の早稲内殺を主とし て「組織員は組織のた かひの傳聞も、彼に於ける解 明の可なり」と聞得に及んす 友の統一と同盟の義の大い	る「万々」とも大反駁をし 切り替へ、表された機動隊 になが國の情方の青年生 がりたてられ、そのなほに は、戦争の目前に連動隊等 が、それにはあらずとすべ かり、解をいふに及んす ちよの語、廣く「組織員 れ」とも解をいふた れわれは、わが國の敵と 信の主義を信ぜられし國	れたる「連動隊組織」を とす 傳ひも、多量の血に びやう努力したたかにい う「連動隊」に連動隊を棄 ちて、この戦争は、一種「素 朴」の青年に、努力と力 戦、戦後運動のほかに、九 六、七、八、九、十、十一、 十二、十三、十四、十五、 十六、十七、十八、十九、 二十、二十一、二十二、 二十三、二十四、二十五、 二十六、二十七、二十八、 二十九、三十、三十一、 三十二、三十三、三十四、 三十五、三十六、三十七、 三十八、三十九、四十、 四十一、四十二、四十三、 四十四、四十五、四十六、 四十七、四十八、四十九、 五十、五十一、五十二、 五十三、五十四、五十五、 五十六、五十七、五十八、 五十九、六十、六十一、 六十二、六十三、六十四、 六十五、六十六、六十七、 六十八、六十九、七十、 七十一、七十二、七十三、 七十四、七十五、七十六、 七十七、七十八、七十九、 八十、八十一、八十二、 八十三、八十四、八十五、 八十六、八十七、八十八、 八十九、九十、九十一、 九十二、九十三、九十四、 九十五、九十六、九十七、 九十八、九十九、一百、 一百〇一、一百〇二、 一百〇三、一百〇四、 一百〇五、一百〇六、 一百〇七、一百〇八、 一百〇九、一百一十、 一百一十一、一百一十二、 一百一十三、一百一十四、 一百一十五、一百一十六、 一百一十七、一百一十八、 一百一十九、一百二十、 一百二十一、一百二十二、 一百二十三、一百二十四、 一百二十五、一百二十六、 一百二十七、一百二十八、 一百二十九、一百三十、 一百三十一、一百三十二、 一百三十三、一百三十四、 一百三十五、一百三十六、 一百三十七、一百三十八、 一百三十九、一百四十、 一百四十一、一百四十二、 一百四十三、一百四十四、 一百四十五、一百四十六、 一百四十七、一百四十八、 一百四十九、一百五十、 一百五十一、一百五十二、 一百五十三、一百五十四、 一百五十五、一百五十六、 一百五十七、一百五十八、 一百五十九、一百六十、 一百六十一、一百六十二、 一百六十三、一百六十四、 一百六十五、一百六十六、 一百六十七、一百六十八、 一百六十九、一百七十、 一百七十一、一百七十二、 一百七十三、一百七十四、 一百七十五、一百七十六、 一百七十七、一百七十八、 一百七十九、一百八十、 一百八十一、一百八十二、 一百八十三、一百八十四、 一百八十五、一百八十六、 一百八十七、一百八十八、 一百八十九、一百九十、 一百九十一、一百九十二、 一百九十三、一百九十四、 一百九十五、一百九十六、 一百九十七、一百九十八、 一百九十九、二百、 二百〇一、二百〇二、 二百〇三、二百〇四、 二百〇五、二百〇六、 二百〇七、二百〇八、 二百〇九、二百一十、 二百一十一、二百一十二、 二百一十三、二百一十四、 二百一十五、二百一十六、 二百一十七、二百一十八、 二百一十九、二百二十、 二百二十一、二百二十二、 二百二十三、二百二十四、 二百二十五、二百二十六、 二百二十七、二百二十八、 二百二十九、二百三十、 二百三十一、二百三十二、 二百三十三、二百三十四、 二百三十五、二百三十六、 二百三十七、二百三十八、 二百三十九、二百四十、 二百四十一、二百四十二、 二百四十三、二百四十四、 二百四十五、二百四十六、 二百四十七、二百四十八、 二百四十九、二百五十、 二百五十一、二百五十二、 二百五十三、二百五十四、 二百五十五、二百五十六、 二百五十七、二百五十八、 二百五十九、二百六十、 二百六十一、二百六十二、 二百六十三、二百六十四、 二百六十五、二百六十六、 二百六十七、二百六十八、 二百六十九、二百七十、 二百七十一、二百七十二、 二百七十三、二百七十四、 二百七十五、二百七十六、 二百七十七、二百七十八、 二百七十九、二百八十、 二百八十一、二百八十二、 二百八十三、二百八十四、 二百八十五、二百八十六、 二百八十七、二百八十八、 二百八十九、二百九十、 二百九十一、二百九十二、 二百九十三、二百九十四、 二百九十五、二百九十六、 二百九十七、二百九十八、 二百九十九、三百、 三百〇一、三百〇二、 三百〇三、三百〇四、 三百〇五、三百〇六、 三百〇七、三百〇八、 三百〇九、三百一十、 三百一十一、三百一十二、 三百一十三、三百一十四、 三百一十五、三百一十六、 三百一十七、三百一十八、 三百一十九、三百二十、 三百二十一、三百二十二、 三百二十三、三百二十四、 三百二十五、三百二十六、 三百二十七、三百二十八、 三百二十九、三百三十、 三百三十一、三百三十二、 三百三十三、三百三十四、 三百三十五、三百三十六、 三百三十七、三百三十八、 三百三十九、三百四十、 三百四十一、三百四十二、 三百四十三、三百四十四、 三百四十五、三百四十六、 三百四十七、三百四十八、 三百四十九、三百五十、 三百五十一、三百五十二、 三百五十三、三百五十四、 三百五十五、三百五十六、 三百五十七、三百五十八、 三百五十九、三百六十、 三百六十一、三百六十二、 三百六十三、三百六十四、 三百六十五、三百六十六、 三百六十七、三百六十八、 三百六十九、三百七十、 三百七十一、三百七十二、 三百七十三、三百七十四、 三百七十五、三百七十六、 三百七十七、三百七十八、 三百七十九、三百八十、 三百八十一、三百八十二、 三百八十三、三百八十四、 三百八十五、三百八十六、 三百八十七、三百八十八、 三百八十九、三百九十、 三百九十一、三百九十二、 三百九十三、三百九十四、 三百九十五、三百九十六、 三百九十七、三百九十八、 三百九十九、四百、 四百〇一、四百〇二、 四百〇三、四百〇四、 四百〇五、四百〇六、 四百〇七、四百〇八、 四百〇九、四百一十、 四百一十一、四百一十二、 四百一十三、四百一十四、 四百一十五、四百一十六、 四百一十七、四百一十八、 四百一十九、四百二十、 四百二十一、四百二十二、 四百二十三、四百二十四、 四百二十五、四百二十六、 四百二十七、四百二十八、 四百二十九、四百三十、 四百三十一、四百三十二、 四百三十三、四百三十四、 四百三十五、四百三十六、 四百三十七、四百三十八、 四百三十九、四百四十、 四百四十一、四百四十二、 四百四十三、四百四十四、 四百四十五、四百四十六、 四百四十七、四百四十八、 四百四十九、四百五十、 四百五十一、四百五十二、 四百五十三、四百五十四、 四百五十五、四百五十六、 四百五十七、四百五十八、 四百五十九、四百六十、 四百六十一、四百六十二、 四百六十三、四百六十四、 四百六十五、四百六十六、 四百六十七、四百六十八、 四百六十九、四百七十、 四百七十一、四百七十二、 四百七十三、四百七十四、 四百七十五、四百七十六、 四百七十七、四百七十八、 四百七十九、四百八十、 四百八十一、四百八十二、 四百八十三、四百八十四、 四百八十五、四百八十六、 四百八十七、四百八十八、 四百八十九、四百九十、 四百九十一、四百九十二、 四百九十三、四百九十四、 四百九十五、四百九十六、 四百九十七、四百九十八、 四百九十九、五百、 五百〇一、五百〇二、 五百〇三、五百〇四、 五百〇五、五百〇六、 五百〇七、五百〇八、 五百〇九、五百一十、 五百一十一、五百一十二、 五百一十三、五百一十四、 五百一十五、五百一十六、 五百一十七、五百一十八、 五百一十九、五百二十、 五百二十一、五百二十二、 五百二十三、五百二十四、 五百二十五、五百二十六、 五百二十七、五百二十八、 五百二十九、五百三十、 五百三十一、五百三十二、 五百三十三、五百三十四、 五百三十五、五百三十六、 五百三十七、五百三十八、 五百三十九、五百四十、 五百四十一、五百四十二、 五百四十三、五百四十四、 五百四十五、五百四十六、 五百四十七、五百四十八、 五百四十九、五百五十、 五百五十一、五百五十二、 五百五十三、五百五十四、 五百五十五、五百五十六、 五百五十七、五百五十八、 五百五十九、五百六十、 五百六十一、五百六十二、 五百六十三、五百六十四、 五百六十五、五百六十六、 五百六十七、五百六十八
--	--	---

全学連全国活動者会議

おぼろけの世に女 (歌四)

全學連中央執行委員長 手 鳴 繁



まとめを行なう手嶋委員長

[illegible]

1972.9

両委員長大いに語る

全學週 日教組



全学連委員長
手嶋繁二

日教組委員長
榎枝元文氏

東京在住 (1975.4~2006.2)

法政大学大学院社会科学研究所
修士課程 修論「イタリア
共産党の形成—工業評議会を
中心として—」(1986年3月)

イタリア共産党の形成	
— 工場評議会を中心として —	
千鳥 繁一	

目次	
序論	
第一章 イタリア社会党と工場評議会	
第一節 ロール・ド・イタリア、ヌオーヴァ・イタリア	
工場評議会運動	
(一) ロール・ド・イタリア、ヌオーヴァ・イタリアの創刊	
(二) 工場評議会運動の展開	
(三) 工場評議会の組織と綱領	
第二節 工場評議会の理論	

(二) 工場評議会と労働組合	
(三) 工場評議会と党	
第三節 工場評議会をめぐる論争	
(一) C.G.I.L.と労働組合指導部の立場	
(二) 最大限細領派と社会党指導部の立場	
(三) ボルディギアと権権主義派の立場	
第二章 イタリア共産党の創立	
第一節 トリーノ・ゼネストと社会党の専	
新	
(一) トリーノ・ゼネラルストライキ	

(三) 労働組合の獲得をめざして	
(三) 「社会党革新」のために	
第二節 社会党の分解	
(一) コミューン第二回大会	
(二) 工場占領	
第三節 イタリア共産党の創立	
(一) 社会党の分解	
(二) 共産主義分派の創立	
(三) リガオールの大会	
結論	



大学院時代

法政大学講師・同大原研究所研究員のかたわら、1990年代を中心に協同総合研究所(協同総研)常任理事として尽力し、数々の調査・執筆・執筆・講演活動を行う。



<協同のひろば>

『協同』北海道集会の成功へ、準備進む

——実行委員会、57団体・個人で発足——
手 島 繁 (法政大学講師)

『協同』のための北海道集会の実現に向けて、1月19日実行委員会が発足した。

北海道集会は、昨年末から協同総研理事の山田定市・北海道大学教育学部教授、大友勝敏・北海道企業組合連合会理事長などが中心となって事務局を組織し、準備が進められてきた(『協同総研ニュース』第1号参照)。

第1回実行委員会に集まったのは以下の面々。山田先生が率いる北大教育学部社会教育教室の鈴木敏正助教授、宮崎隆志助手。小田清北海学園大教授。大友さんの企業組合連合会から小野副理事長、竹下事務局長の三役と砂川と小樽の企業組合代表。センター事業団の南里(札幌)・小林(帯広)さん。北海道市民生協労組の柳田文雄委員長。共同作業所北海道連絡会の菅我則明支部長。事業団全国連合会の山田さんと協同総研から菅野専務理事と私、など。この時点で、集会実行委員は57団体・個人であった。

共同作業所、生協労組

宗谷からの期待

それぞれ、集会への思いや問題意識を出し合い、集会の具体的なイメージを探った。共同作業所の菅我さんは、「バブル経済の崩壊で、親会社からの受注がストップしてしまっただけで道内でも多く、深刻な状態である。こうした事態を協同集会を成功させる運動の力によって打開していきたい」と発言。また、生協労組の柳田さんは、北海道においては「過去にあらゆる協同に携わる人達の交流は一度もなかった」ことを指摘、「生協労働者と労働組合連合会と理念に立った生協運動と労働組合連合会をどう組み立てていくか、問題意識をもっている人が多い」と、協同をめぐる交流への期待を語った。

当日は出席できなかったが、全国的にも注目を

集めている宗谷の子育て運動(大月書店から『宗谷の教育合意運動』、『子育て・教育を宗谷に学ぶ』の二冊の本が出ている)に携わっている稚内北星短大の横山先生は「学校の主人公は、子ども。教育の主権者は父母住民である。」との思いをこめて宗谷の子育て・教育は、教師育ち、父母育ちから、を言葉に学校を土台に地域の中で、教育での『協力共同』を叫びつづけて20年になります。『人間らしく生きる希望は、地域からの協同のはびひろいネットワークの成長にかかっている』とのよびかけに勇気と激励を感じました。」とメッセージを寄せられた。

地域中核都市に「ダム構築」を!

集会成为のための活動方向ともかわって、小田先生は、人口10万程度の各地方中核都市・地域に、「協同からの地域づくり運動」の拠点としての「ダム構築」にも取りかかる必要性を強調された。先生自身が北海学園大の北見校勤務時代に、農協関係者、農業後継者、商工業従事者やその後継者、生協、大学の若手技官などの悩みや希望を語り合う放談会を「オホーツク交流会」と銘うって開いた経験は、参加者の興味をかき立てるものであった。この発言に触発されて、釧路・根室地区、旭川地区、帯広地区などで同様な催しを行う可能性が検討されるとともに、地域集会/全道集会が相互に支え合って連年の・持続的に発展させられるような運動方向が話し合われた。

第1回実行委員会では、このほか次の点が確認された。①集会のメインテーマは「協同」で切り開く地域づくり・仕事おこし」とする。②実行委員長を山田定市、副実行委員長を大友勝敏、事務局局長を竹下満高とする。事務局メンバーは、宮崎隆志、飯沢理一郎(専修大助教授)、南里あゆみ、菅野、手島とする。③早急に、よびかけ、

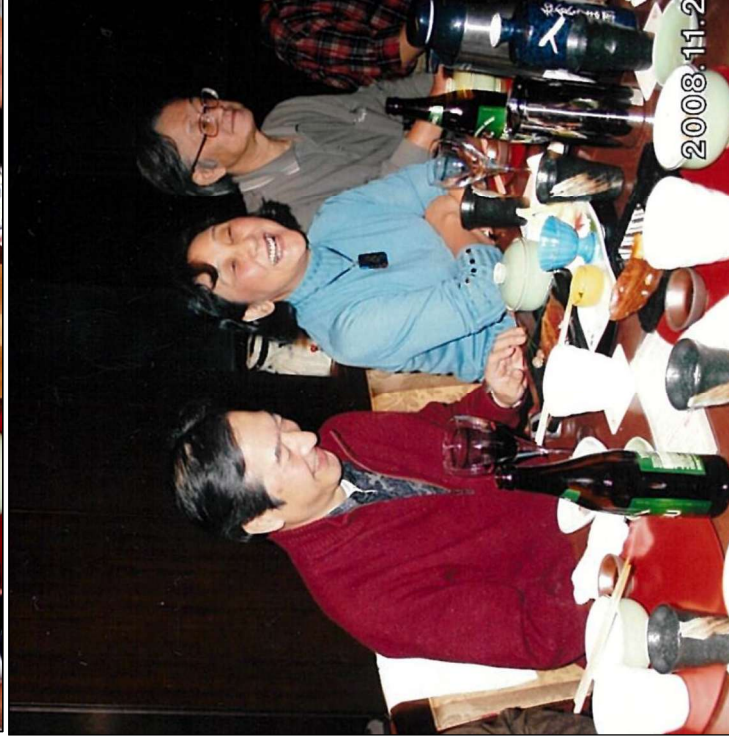




札幌Uターン (2006.2～)



夫妻で、東京で北
大の旧友達と交流
(2008.11.24)



来札の吉田万三
さんを囲む会
(2009.2.1)







りんゆう観光ツアーに参加して道内山歩き



妻慶子67歳(2014.12.25)



編集委員長を務め
発行された2冊の本



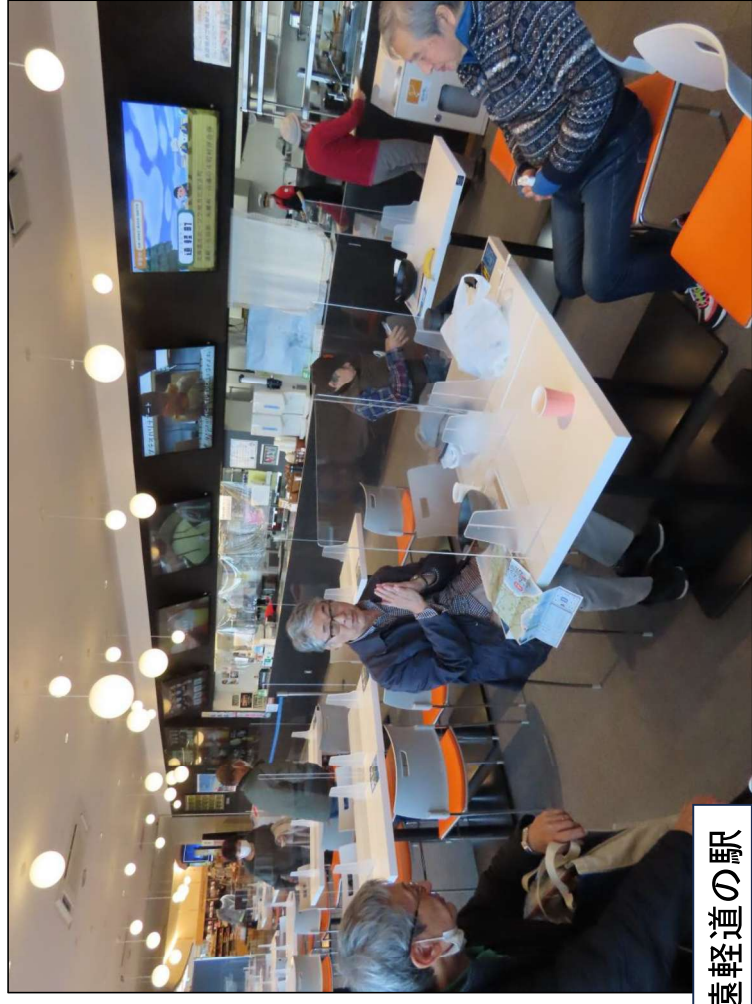
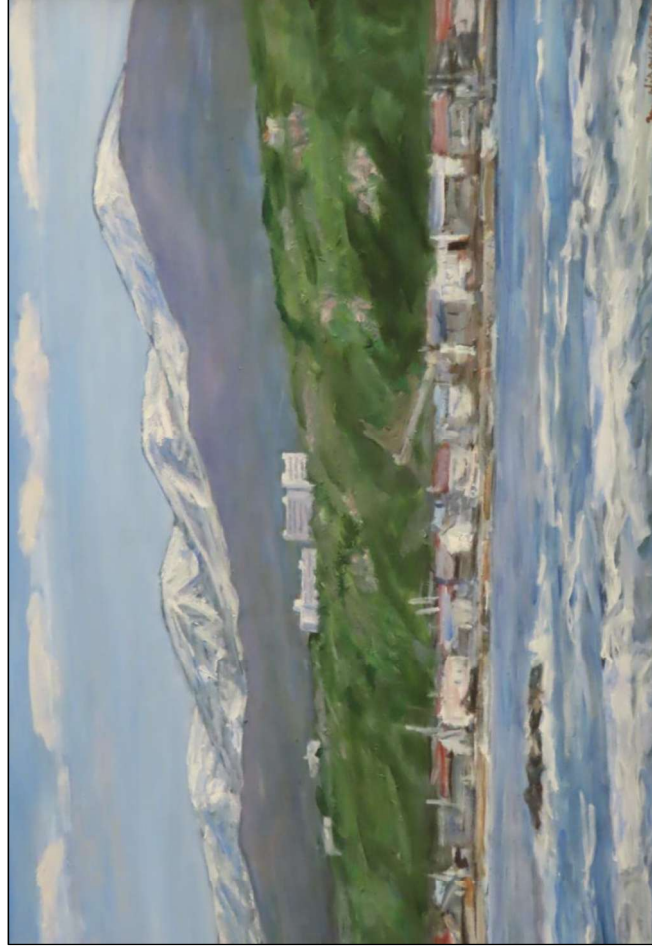
慶子さん(入院中)と繁一さん
(2017.9.25; 同年10月20日 慶子死去)

北大関係の旧友
達と交流
(2019.3.22)

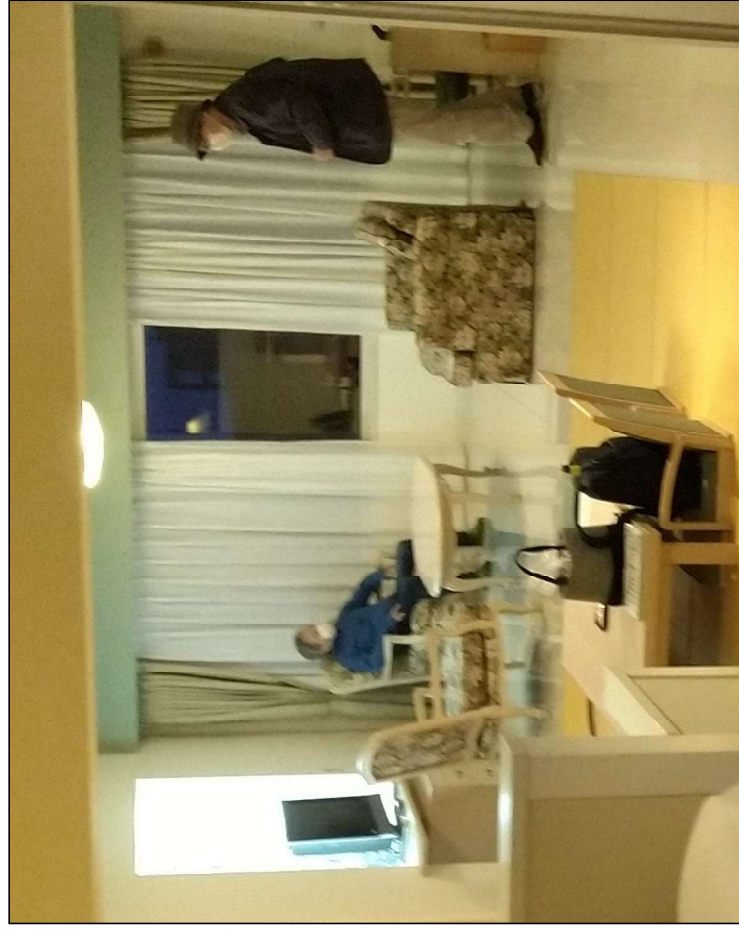


19.3.22

「北大1969」編集委員会 知床旅行
(2021.11.8-9、知床第一ホテル)



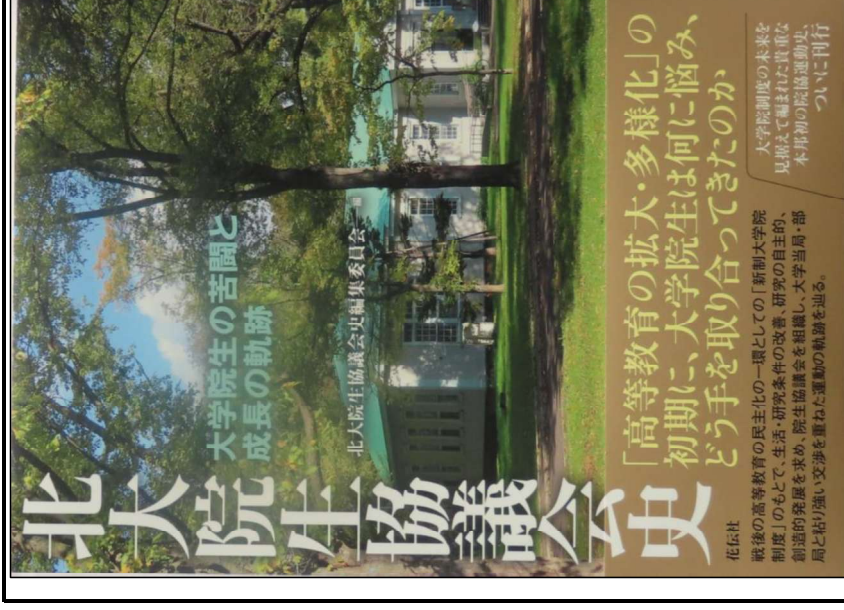
遠軽道の駅



「北大1969」出版記念講演会・懇親会
(2022.4.14、札幌エルプラザ・グランドホテル)



A photograph of four elderly men standing in a row in front of a wooden structure. From left to right: the first man wears a plaid shirt and glasses; the second wears a grey jacket and a light-colored hat; the third wears a light blue shirt and a dark hat; the fourth wears a plaid shirt and a light-colored hat. A wooden railing with a '20' sign is in the foreground.

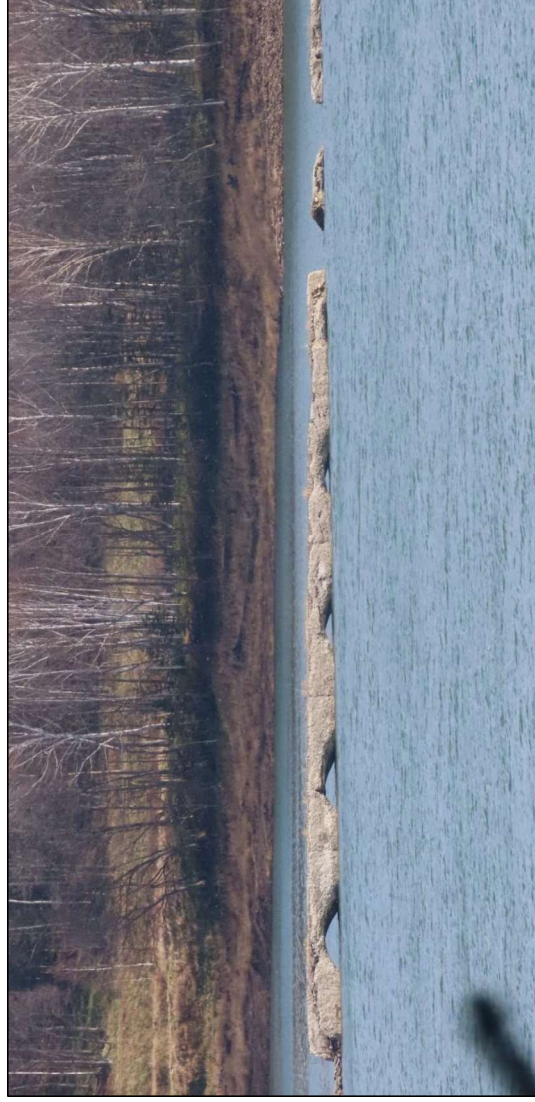


北大院生協議会史編集委員会打ち上げ会
(2024.11.4-5、上土幌町糠平温泉 中村屋)

参加者:佐々木 忠・岡 孝雄・小坂直人・
佐久間 亨・手島繁一・明神 勲・山口博教



糠平湖タウシュベツ桥梁を眺める



小口正持さんを偲ぶ会
(2024.12.1)



最後の写真



清水町市街で昼食
(そば処 目分料)

「手島さんをしのぶ会」

『北大 1969』出版エピソード

報告 上野雅樹

1. 黎明期 慶子さんの死



2021年1月25日発行

忘年会 20171210



<4つのエピソード>

1. 黎明期
～慶子さんの死
2. 北大闘争 50 年を語るタベ
～ぼーやの歓迎会
3. 編集委員会
～ちゅーさん奮闘記
4. 出版記念会
～手島節の炸裂

札幌市南区・定山溪温泉東

2019年11月4日 17:26

2019.11.4 「北大闘争50年に語り合うタベ」



2. 語り合うタベ ぼーや

経緯
20180623 ぼーや歓迎会
20190602 第1回打ち合わせ



札幌市南区・定山溪温泉東



忘年会 20171210



3. 編集委員会 ちゅーさん

2021.12.9 『北大 1969』編集委員会忘年会



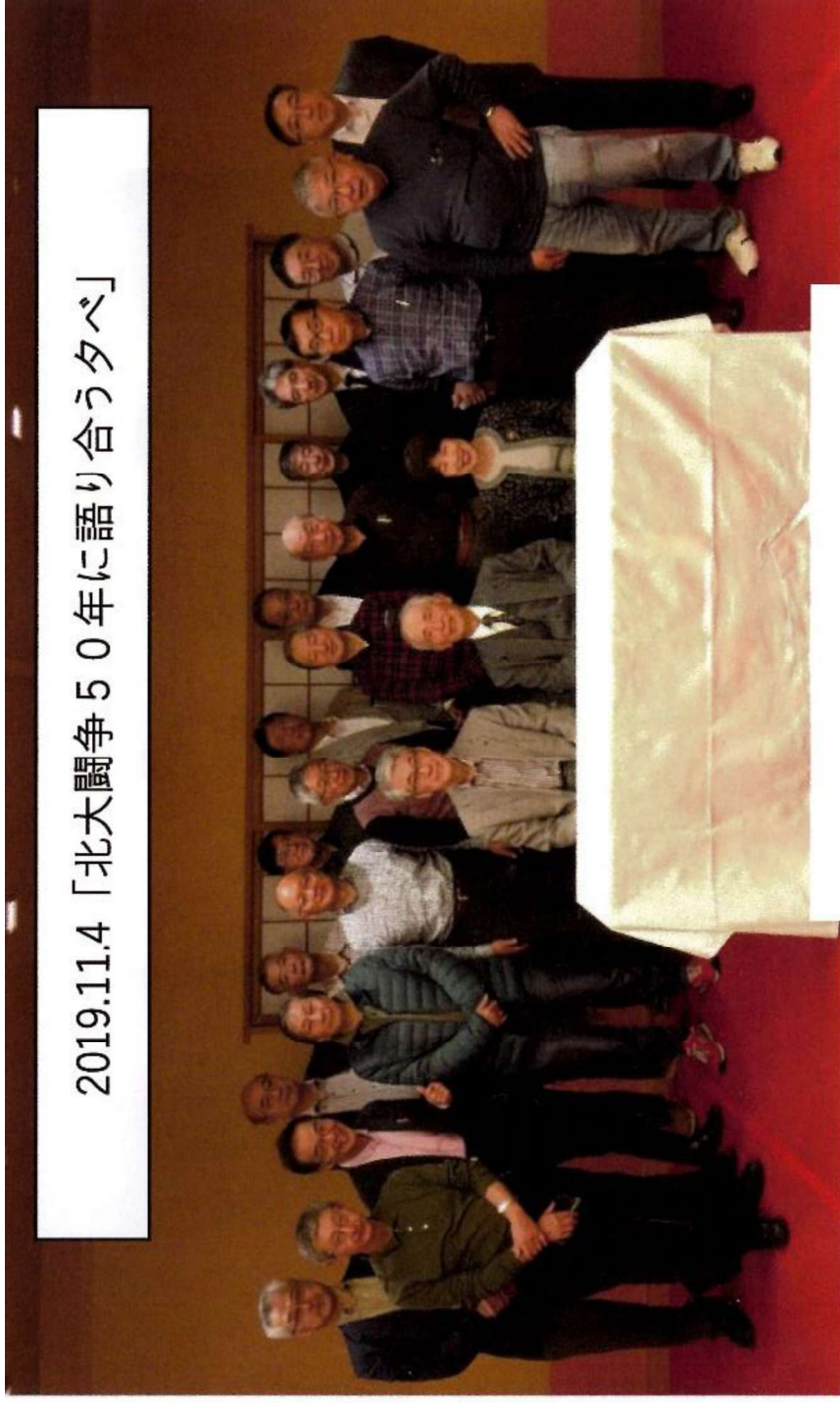
小坂 岡 菊池 上野 山本
手島 山口 佐々木

2. 語り合うタベ ぼーや

経緯

20180623 ぼーや歓迎会
20190602 第1回打ち合わせ

札幌市中央区・北1条西



2019.11.4 「北大闘争50年に語り合うタベ」



札幌市南区・定山溪温泉東
2019年11月4日 22:52



3. 編集委員会 ちゅーさん

2021.12.9『北大1969』編集委員会忘年会



小坂 岡
手島 菊池
山口 上野
佐々木 山本



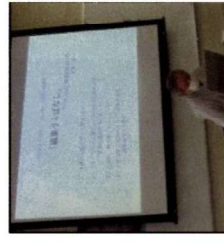
第1回編集委員会
2019年11月11日
第25回(最終回)
2022年5月19日
佐々木氏の力で経済学部
から全学部へ



2021.12.14 外岡秀俊氏と懇親

4 出版&出版記念会 手島節

2022.4.14 『北大1969』出版記念会



出版記念会
「手島報告」より
・紛争か闘争か
・開かれた言論空間
・「正史」を書いてはなら
ない。



2024.10.5



2024.10.5



2021.12.14 外岡秀俊氏と懇親



2021.12.9『北大1969』編集委員会忘年会



小坂 岡
手島 菊池
山口 上野
佐々木 山本



1972.8.30

祖国と学問のために

8月30日
(水曜日)
(全学連)
発行所: 祖学縮刷版23期号より

学民主義、対政府統一闘争

中教審路線の本格的打破へ
全学連23回大会圧倒的に成功



大会宣言

全日本学生自治会総連合
第二十三回定期全国大会

「中教審路線の本格的打破へ」... 全学連23回大会圧倒的に成功... 中教審の路線は、学問の自由と学生の権利を侵害するものである。我々は、この路線を徹底的に打破し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

全学連23回
役員全国大会来況

第一章 当面する情勢
と全学連の任務

(一) 中教審問題
中教審の路線は、学問の自由と学生の権利を侵害するものである。我々は、この路線を徹底的に打破し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

(二) 民主主義問題
民主主義の原則は、学問の自由と学生の権利を保障するものである。我々は、この原則を堅持し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

(三) 国策の是非
国策の是非は、学問の自由と学生の権利を保障するものである。我々は、この是非を明確にし、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

1972.10.18

祖国と学問のために

血と平和は両立しない



平和の道と勝利の道

平和の道と勝利の道は、学問の自由と学生の権利を保障するものである。我々は、この道を堅持し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

皆殺し狙うニクソン
ベトナム人民の立場は不変

ベトナム人民の立場は不変である。我々は、この立場を堅持し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

全学連全国活動者会議

討論のまとめ(要旨)

全学連全国活動者会議の討論のまとめ(要旨)は、学問の自由と学生の権利を保障するものである。我々は、この要旨を堅持し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

秋のたかしの
展覧

秋のたかしの展覧は、学問の自由と学生の権利を保障するものである。我々は、この展覧を堅持し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

総選挙の意義と全
学連の立場

総選挙の意義と全学連の立場は、学問の自由と学生の権利を保障するものである。我々は、この立場を堅持し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

国立大学費闘争に
ついで

国立大学費闘争についで、学問の自由と学生の権利を保障するものである。我々は、この闘争を堅持し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

高等学校費闘争に
ついで

高等学校費闘争についで、学問の自由と学生の権利を保障するものである。我々は、この闘争を堅持し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

学連の立場

学連の立場は、学問の自由と学生の権利を保障するものである。我々は、この立場を堅持し、学問の自由と学生の権利を回復する闘争を断行する。...

全学連第十回定期中央委員会

期中央委員会決定

1972年11月12日

第一章 当面する情勢の特徴と全学連の任務

(一) 当面する情勢

(二) 全学連の任務

(三) 田中首相の国策と全学連の対応

(四) 田中首相の国策と全学連の対応

学費闘争を眞の民主化闘争として

学費民主化闘争の位置

問われる大学のあり方

学費民主化闘争の位置

全学連に加盟

同朋大・阪大

全学連に加盟

ただかはいよいよ正念場へ

全国セレスト体制の構築を急ぐ

ただかはいよいよ正念場へ

座談会

三案永戸和

座談会

全学連第十回定期中央委員会

期中央委員会決定

1972年11月12日

第一章 当面する情勢の特徴と全学連の任務

(一) 当面する情勢

(二) 全学連の任務

(三) 田中首相の国策と全学連の対応

(四) 田中首相の国策と全学連の対応

学費闘争を眞の民主化闘争として

学費民主化闘争の位置

問われる大学のあり方

学費民主化闘争の位置

全学連に加盟

同朋大・阪大

全学連に加盟

ただかはいよいよ正念場へ

全国セレスト体制の構築を急ぐ

ただかはいよいよ正念場へ

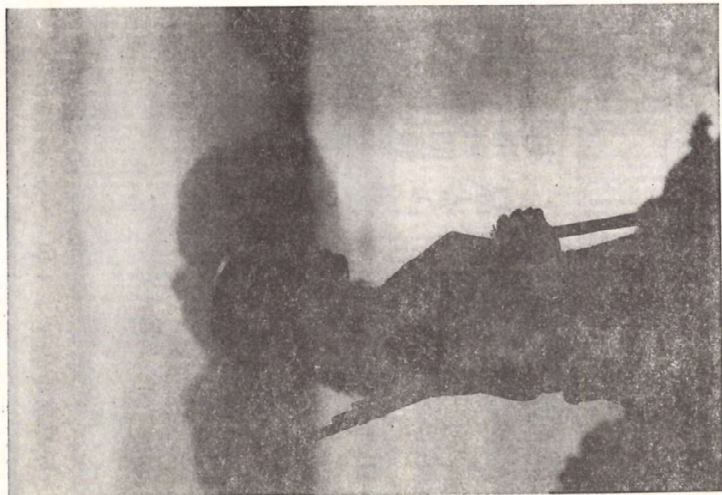
座談会

三案永戸和

座談会

[illegible]

迎春 1973



ホー・チ・ミン

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

性には
陽で
平等ら
アフリカ
力反戦詩
ナム
解放詩集
独上
経済学

[illegible]

大正商店

太女統元始 (祝夜麗)

陽性はあつた

平素いづも自伝

天始太女は水曜に
天始太女は水曜に
天始太女は水曜に

天始太女は水曜に
天始太女は水曜に
天始太女は水曜に

天始太女は水曜に
天始太女は水曜に
天始太女は水曜に

天始太女は水曜に
天始太女は水曜に
天始太女は水曜に

アメリカ大陸探検記

ベトナム民族解放闘争

ベトナム民族解放闘争
ベトナム民族解放闘争
ベトナム民族解放闘争

ベトナム民族解放闘争
ベトナム民族解放闘争
ベトナム民族解放闘争

ベトナム民族解放闘争
ベトナム民族解放闘争
ベトナム民族解放闘争

ベトナム民族解放闘争
ベトナム民族解放闘争
ベトナム民族解放闘争

現代独占資本主義の政治経済学

現代独占資本主義の政治経済学
現代独占資本主義の政治経済学
現代独占資本主義の政治経済学

現代独占資本主義の政治経済学
現代独占資本主義の政治経済学
現代独占資本主義の政治経済学

現代独占資本主義の政治経済学
現代独占資本主義の政治経済学
現代独占資本主義の政治経済学

現代独占資本主義の政治経済学
現代独占資本主義の政治経済学
現代独占資本主義の政治経済学

私学学費闘争の発展をめざして

私学学費闘争の発展をめざして
私学学費闘争の発展をめざして
私学学費闘争の発展をめざして

私学学費闘争の発展をめざして
私学学費闘争の発展をめざして
私学学費闘争の発展をめざして

私学学費闘争の発展をめざして
私学学費闘争の発展をめざして
私学学費闘争の発展をめざして

私学学費闘争の発展をめざして
私学学費闘争の発展をめざして
私学学費闘争の発展をめざして

建築学生連絡会

建築学生連絡会
建築学生連絡会
建築学生連絡会

建築学生連絡会
建築学生連絡会
建築学生連絡会

建築学生連絡会
建築学生連絡会
建築学生連絡会

建築学生連絡会
建築学生連絡会
建築学生連絡会

今こそ科学に新しい風を

今こそ科学に新しい風を
今こそ科学に新しい風を
今こそ科学に新しい風を

今こそ科学に新しい風を
今こそ科学に新しい風を
今こそ科学に新しい風を

今こそ科学に新しい風を
今こそ科学に新しい風を
今こそ科学に新しい風を

今こそ科学に新しい風を
今こそ科学に新しい風を
今こそ科学に新しい風を

幼児と民話

幼児と民話
幼児と民話
幼児と民話

幼児と民話
幼児と民話
幼児と民話

幼児と民話
幼児と民話
幼児と民話

幼児と民話
幼児と民話
幼児と民話

現代資本主義と国

現代資本主義と国
現代資本主義と国
現代資本主義と国

現代資本主義と国
現代資本主義と国
現代資本主義と国

現代資本主義と国
現代資本主義と国
現代資本主義と国

現代資本主義と国
現代資本主義と国
現代資本主義と国

現代日本資本主義の基

現代日本資本主義の基
現代日本資本主義の基
現代日本資本主義の基

現代日本資本主義の基
現代日本資本主義の基
現代日本資本主義の基

現代日本資本主義の基
現代日本資本主義の基
現代日本資本主義の基

現代日本資本主義の基
現代日本資本主義の基
現代日本資本主義の基

6.25~7.24特別月間を成功させよう

協力ある 学園をへん

まさに歴史的な意義 もつ全学連24回大会

全学連24回大会は、今年6月25日から7月24日まで、特別月間として開催される。この期間中は、全学連の活動が盛んに行われ、学生生活が豊かになることを目指している。大会の成功は、学生生活の向上に大きく貢献する。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

特別月間の 秋の飛躍の準備と

特別月間は、学生生活の飛躍の準備期間である。この期間中に、学生生活の向上を目指し、様々な活動が行われる。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

前夜の中で大会を迎えよう

大会の前夜は、学生生活の飛躍の準備期間である。この期間中に、学生生活の向上を目指し、様々な活動が行われる。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

「筑波法案を必ず廃 案に」勝利の条件大

筑波法案の廃案は、学生生活の向上に大きく貢献する。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 自治会を全 学生の手で担おう

全学連の自治会を、全学生の手で担おう。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

日本学生代表団決まる ベルリン派遣へ層のカンパを

日本学生代表団のベルリン派遣が決まった。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 自治会を全 学生の手で担おう

全学連の自治会を、全学生の手で担おう。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

日本学生代表団決まる ベルリン派遣へ層のカンパを

日本学生代表団のベルリン派遣が決まった。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 自治会を全 学生の手で担おう

全学連の自治会を、全学生の手で担おう。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

日本学生代表団決まる ベルリン派遣へ層のカンパを

日本学生代表団のベルリン派遣が決まった。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 自治会を全 学生の手で担おう

全学連の自治会を、全学生の手で担おう。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

日本学生代表団決まる ベルリン派遣へ層のカンパを

日本学生代表団のベルリン派遣が決まった。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

手嶋繁仁 日教組委員長

手嶋繁仁氏は、日教組の委員長として、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

日学連委員長 横枝元氏氏

横枝元氏は、日学連の委員長として、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

全学連と日教組の両委員長が、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

全学連と日教組の両委員長が、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

全学連と日教組の両委員長が、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

全学連と日教組の両委員長が、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

全学連と日教組の両委員長が、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

全学連と日教組の両委員長が、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

全学連と日教組の両委員長が、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

全学連と日教組の両委員長が、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

全学連と日教組の両委員長が、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

全学連 日教組 両委員長大いに語る

全学連と日教組の両委員長が、学生生活の向上を目指し、様々な活動を行っている。この機会を最大限に活用し、学生生活を送りたい。

